

1 激甚化する風水害や切迫する大規模地震等への対策

(1) 人命・財産の被害を防止・最小化するための対策

(2) 交通ネットワーク・ライフラインを維持し、国民経済・生活を支えるための対策

2 予防保全型インフラメンテナンスへの転換に向けた老朽化対策

3 (1) 国土強靱化に関する施策のデジタル化

(2) 災害関連情報の予測、収集・集積の高度化

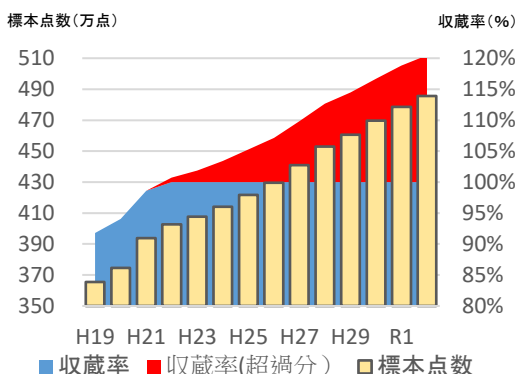
国立文化施設の施設整備により、人的被害・物的被害を軽減する (茨城県つくば市)

事業者：独立行政法人国立科学博物館

<対策前> 収蔵スペースに収まりきらず、資料が廊下や棚上に仮置された状態



標本点数と収蔵率(H19～R2)



<対策後>



対策名：21 国立文化施設の安全確保等にかかる対策



主たる施策グループ：1-1) 大規模地震に伴う、住宅・建物・不特定多数が集まる施設等の複合的・大規模倒壊による多数の死傷者の発生 教育・文化等

事業名：独立行政法人国立科学博物館の施設整備

- ポイント**
- 収蔵庫の新営及び耐震性の強化を実施
 - 来場者・職員の人的被害、ナショナルコレクションの物的被害を軽減

地域の概要・課題

茨城県つくば市に所在する国立科学博物館の収蔵庫の収蔵率は限界を迎えています。

今後発生しうる各種災害に対する安全面での懸念や研究効率の悪化などの問題が生じている状況にあり、収蔵庫の確保が急務となっていました。

見込まれる効果

収蔵施設の拡充及び耐震性の強化により、来場者・職員の人的被害及び貴重なナショナルコレクションの物的被害を最小限にすることが見込まれます。

さらに、コレクションの更なる利活用を進め、質の高い展示・学習支援事業等の実施環境を確保します。

<第2収蔵庫建設予定地>

既存収蔵庫に隣接して、第2収蔵庫を建設中。



事業の概要

国立科学博物館では、自然史及び科学技術史の中核的研究機関として標本・資料の収集を行い、日本を代表するナショナルコレクションの構築を目指しています。しかしながら、収蔵庫の収蔵率が限界を迎え、安全面での懸念や研究効率の悪化などの問題があるため、貴重なナショナルコレクションを安全に保管できるよう、耐震性を備えた収蔵庫を新営します。(令和7年3月工事完了予定)